



市長 からの 手紙

76 小浜市訪問

連休中の、5月2日、3日に川越市の姉妹都市である福井県小浜市を公式訪問しました。この時期に行われる「小浜お城まつり」に招待され、今年は、清水俊男姉妹都市交流委員会代表、小野澤康弘市議会議長、市の担当職員で訪問しました。

小浜市と川越市が姉妹都市になったのは、川越藩主であった酒井忠勝公(徳川幕府の老中)が寛永11年(1634)、領地換えで若狭国小浜藩に行ったご縁からです。川越市からの訪問団は、小浜に行くと酒井忠勝公の墓前にお参りして線香を供えます。高さ3メートル以上もある石が立つ酒井家の立派な墓は、空印寺というお寺にあります。住職の話では、もともとは江戸にあったお墓を、明治時代になってから小浜の空印寺に移したのだそうです。

お城まつりでのハイライトは雲濱(うんぴん)獅子です。雲濱獅子は、酒井忠勝公が川越藩主だったときに大変気に入っていた石原のささら獅子舞の演技者を小浜に引き連れて行き、城内

でしか演技させなかったという獅子舞です(石原のささら獅子舞は、その後50年くらい衰退してしまっただか)。

酒井忠勝公を祭って明治初期に創建された小浜神社の境内で、子どもの演じる獅子舞と大人の演じる獅子舞が奉納されるのを神社正面の席で鑑賞させていただきました。感心するのは子どもたちが実によく練習していきなりと舞えることです。獅子舞にもストーリーがあり、それを頭に入れて見ていると、わずかなしぐさの違いや笛の調子の違いで心理や状況を実に巧みに表現していることが良く分かります。序・破・急のお囃子の調子に合わせて太鼓の打ち方、強弱を変えながら1頭の雌獅子と2頭の雄獅子が緩やかに円を描くように、あるいは入り乱れて舞うのですが、子どもの獅子舞でも3人(3頭)の太鼓や動きがきちんと合って滑らかに舞う姿に、いつも感心・感動させられます。

地元の人の話を聞くと、やはり獅子舞の後継者を維持するにはご苦労されているようですが、奉納の獅子舞を見ている限り雲濱獅子の後継者は不安がなさそうに感じました。

川越にも石原のささら獅子舞をはじめ、各地区に獅子舞が残されています。子どもから大人まで参加することができるこのような伝統芸能を、将来にわたって引き継いでいってほしいと思っています。

川越市長 川合善明

ともに支え合い、暮らしをくまなく

障害者福祉課 ☎224・5785

Fax 225・3033

今回は、知的障害と発達障害についてです。これらの障害は、外見では分かりづらい場合があるため、理解されにくい傾向があります。障害の症状等について知り、理解を深めましょう。

知的障害について

知的障害とは、知的な能力の発達が他の同じ年齢の方と比べ遅れているため、日常生活に支障がある状態です。ほとんどの方が発達期(18歳未満)で症状が表れるとされています。身の回りの支援が必要な重度の方から、社会生活を送れる軽度の方まで症状はさまざまです。

話し掛ける時のポイント

- 相手が安心するよう「ゆっくり」「はっきり」「繰り返し」、穏やかな口調で話し掛けましょう
- 20歳以上の方には、子ども扱いせずに、その方の年齢に応じた対応をしましょう

発達障害について

発達障害とは、脳の働きの障害で、生活する上でコミュニケーションをうまく取れないなど、さまざまな問題がある状態です。自閉症や学習障害、注意欠如・多動性障害(ADHD)などがあります。多くの方は低年齢で症状が表れますが、大人になってから障害が分かる方もいます。気が散りやすく集中できなかったり、感覚が過敏または鈍感であったりする方など症状は人それぞれです。

まずは知ることから

発達障害は、周囲から理解されにくく、本人の努力不足や家庭の問題と誤解されることがあります。まずは、このような障害があることを知り、理解しておくことが大切です。